

一般質問（要旨）「市政のここを問う」

今定例会では、17名の議員が市政全般にわたり一般質問を行いました。要旨は1～2問とし掲載しました。会議録は5月下旬頃に市役所情報コーナー及び図書館に配置します。

また、福生市議会ホームページにも掲載しますので、ぜひご覧ください。なお、一般質問通告一覧は、福生市議会ホームページに掲載しています。

※録画映像を議員名左横のQRコードよりご覧いただけます。



▲福生市議会HP (通告一覧へリンクします)

加藤市政の総括について



正和会 佐藤 弘治 議員



質問 加藤市政の3期目から4期目にかけての総括を伺う。また、5期目への決意を伺う。

市長 いかに市政運営を持続可能とするかを常に考えている。平成28年5月からの3期目では「福生市人口ビジョン及び総合戦略」に基づき、子育て施策を中心に定住化対策に注

力。7年連続で「共働き子育てしやすい街ランキング」全国トップ10入りを果たした。4期目はコロナとの戦いになる中、特別定額給付金やプレミアム付商品券事業など、市民や事業者を積極的に支援。また、生活様式の変化に合わせて、市内のDX化や教育のICT化など、デジタル技

術の活用を図ってきた。現在も物価高騰は収まる気配がなく、福生駅西口地区市街地再開発事業や福生駅東口地区富士見通り線整備事業は、コロナの影響で道半ばの状況であり、熟慮を重ねた結果、私自身の手でこの難局を突破し、福生市政を次代につなげていきたいと考えている。



▲第5期福生市総合計画(抜粋)

公共施設マネジメントについて



正和会 清水 義朋 議員



質問 公共施設の整理の話は総論賛成、各論反対となりやすい。計画的な「しまい方」への考え方を伺う。

市長 本市の学校教育系施設や市民文化・生涯学習系施設はその多くが今後耐用年数を迎え、修繕の増加による経費の増大と市民サービスへの支障が課題であり、今後は老年人

口の増加が見込まれ、バリアフリー化などの機能付加や用途変更も考えられるが、生産年齢人口の減少による税収減少など、全施設の維持更新は困難と予想される。本市の公共施設マネジメントは、総量抑制の原則に基づき在り方を検証、学校施設を核に複合化や集約化を行う考えで、

不要となる施設の閉鎖も起こりうる。具体的な方針や方法等は未定だが、市民生活への影響も考えられるため、情報共有をしっかりと行い住民や利用者等と合意を形成したい。また、余剰となる建物・土地については方針に基づき市や民間事業者による新たな活用も検討していく。



子ども家庭支援について



正和会 山崎 貴裕 議員



質問 子ども家庭支援センターへ相談に来られる方や家庭以外にも支援を必要とする方は潜在的に多いと思われる。市民への窓口の周知方法と今後の課題を伺う。

市長 子ども家庭支援センターの業務については、市広報やホームページのほか、夏季休暇前に児童・

生徒へチラシを配布するなどの周知を行っている。より包括的な相談体制を整備するため、令和6年4月に児童福祉機能の子ども家庭支援センターと母子保健機能の子育て世代包括支援センター等を統合し、新たに「こども家庭センター」を設置する。これまで以上に連携を強化し、市民

に利用してよかったと感じてもらえるよう、さらなる周知を図る。これまで相談支援は夜間対応ができないことが課題であったが、こども家庭センター開所後は、水曜日の夜間に相談を受けられる体制をとるほか、東京都等で開設している電話やLINE相談窓口等も活用したい。



保育所等における待機児童対策について



正和会 森田 哲哉 議員



質問 本市が8年連続で待機児童ゼロを成し遂げた待機児童対策と今後の保育政策の展望を伺う。

市長 待機児童は0歳・1歳児クラスに発生しやすいため、保育園に改修も含めた定員拡充をお願いしたほか、定員に余裕のある園を追加し申請するよう保護者へ助言した。今

後は保育の質の向上に向け、都や東京大学の研究機関と連携した保育プログラムの実施等に取り組んでいく。

産後ケア事業の現状について

質問 令和5年8月の利用者負担減免支援拡充後の利用状況や伴走型相談支援との連携、課題等を伺う。

市長 前年度に比べ申請者は約2

倍、産婦の3人に1人が利用。伴走型相談支援と連携し、本事業は保健師と面談後に支援プランを作成、助産所や医療機関と情報共有し定期的に支援している。利用申請件数が増加し受入先の確保に苦慮していることから、新たな受入先を加え計5か所に対応している。



▲ときようすくわくプログラムシンポジウムの様子

誰もが自分らしく生きるための支援について



生活者ネットワーク 三原 智子 議員



質問 市の性的少数者への支援と差別しないための取り組みを伺う。

市長 令和3年3月に策定した福生市男女共同参画行動計画(第6期)では、性的少数者を含め複合的に困難を抱えやすい人々を対象とした相談支援や意思疎通の支援等、多様性に配慮した支援への取り組み

と理解を深める啓発を行う旨を記した。令和6年1月に「LGBTQについて考えよう」をテーマに男女共同参画講演会並びに男女共同参画セミナーを開催。小学5年生及び中学1年生を対象とした啓発用ガイドブック「あなたもわたしも輝いて」に令和5年度から「多様性」を加え児童期か

ら認識が浸透するよう図った。市内公共施設並びに駅前公衆トイレ等に「福生市女性等悩みごと相談カード」を設置するなど、気軽に相談できる専門電話、LINE相談などを紹介している。性的少数者に寛容な社会の実現に向け、引き続き知識の普及啓発及び支援の充実に努める。



▲男女共同参画セミナーの様子